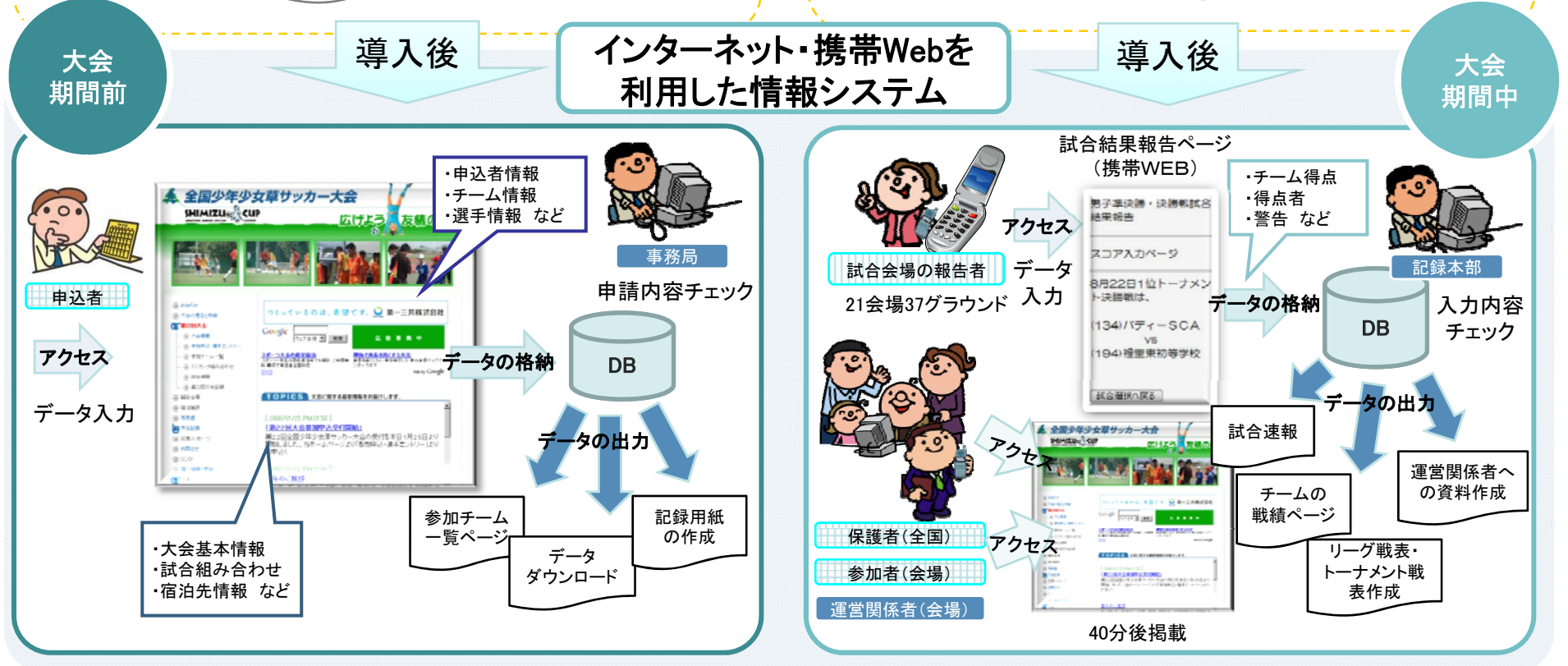
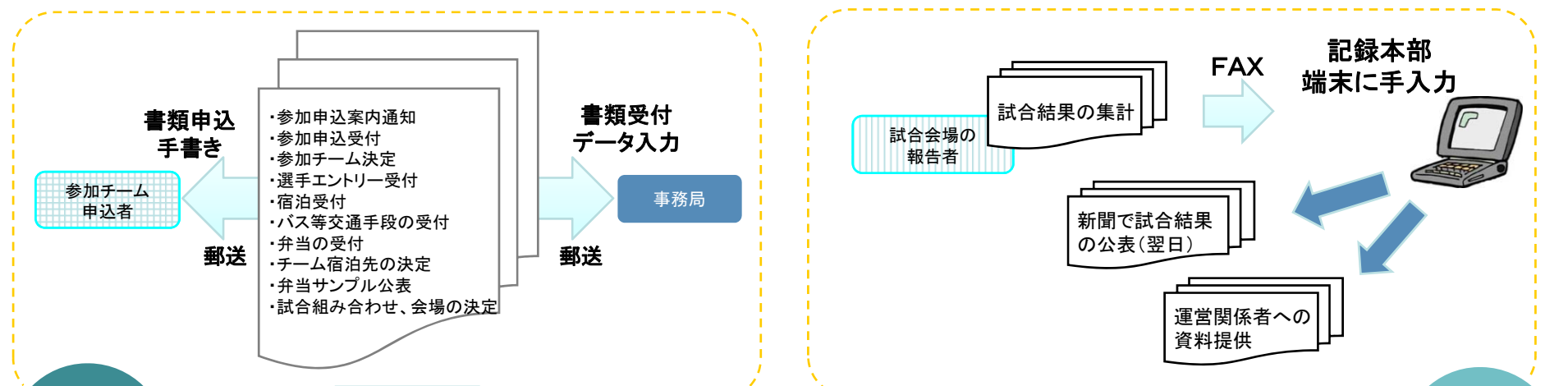


サービス・システム名称	大分類(いずれかを選択)
全国少年少女草サッカー大会運営支援システム	ライフ ビジネス
小分類(記入要領に従い、最大で5つまで選択可)	
安心・安全 医療 食 教育 文化 コミュニティ 見守り・介護 就労・労働 人材育成 電子認証・決済 コンテンツ制作・流通 防災・災害対策 地理的情報格差解消 アクセシビリティ セキュリティ対策 交通・物流 業務効率化 生産性向上 ポータルサービス 行政サービス その他( )	
u - Japanの理念(複数選択可)	ユビキタス ユニバーサル ユーザ ユニーク
地域活性化への貢献、地球温暖化問題への対応(複数選択可)	地域活性化 温暖化問題への対応
企業または団体名	
特定非営利活動法人 ふじのくに情報ネットワーク機構 (http://www.fino.jp/)	
サービス・システムの概要	
<p>全国少年少女草サッカー大会は毎年8月に全国から288チームが参加する全国最大規模のサッカー大会であり、本システムは1月の参加申込から8月大会期間の運営(総試合数は1026、21会場37グラウンドにて1日288試合が行われる)全般を支援するシステムである。分散した会場での試合結果を、携帯Webデータ入力やメールとカメラを活用して報告・確認し、試合結果の速報をインターネット経由で発信する。また、対戦相手の決定や会場移動や宿泊施設や弁当配布など事務局業務全部を本システムで一元的に管理する。</p>	
サービス・システムの狙い(利用想定層、開発・提供のきっかけ)	
<p>ITを活用して情報収集、インターネットで全国に発信し、かつ大会事務局の省力化を実現し、“サッカーのまち清水”を活性化させることを目標に、主催者の静岡市より要望を受け、開発された。本システムは、大規模大会の運営全般の情報化による大会運営の効率化により地域スポーツ振興活動の持続性と安定性の確保を目的としているが、あわせて民産官学の連携による地域情報化・地域人材育成・実践能力を持つ情報技能人材の育成をも目指したものである。</p>	
サービス・システムの特徴・特記事項	
<p>2005年からプロジェクトを開始(試行システムを開発、導入効果の評価と学生主体のシステム開発の実現性の検証に着手)し、2006年大会での本稼働まで、学生主体の開発チームとの長期間にわたる開発経験を通して、地域スポーツ振興を担う事務局の情報化意識の向上も達成できた。</p> <p>学生達はこの開発を通して、情報関連企業との協働を通して問題を分析する能力やその解決のためのソフトウェアシステム開発技能やプロジェクトマネジメントの実践的知識を身につけることが出来た。また、事務局関係者との接触をとおして地域振興活動への関心を深め、高度な情報システム開発能力をもつ地域活性化人材として成長した。</p>	
利活用の状況	
<p>提供地域 静岡市 導入主体 全国少年少女草サッカー大会実行委員会 提供開始年月日 平成18年・19年8月 (開発年月日) 平成17年～19年7月</p>	
定量的導入効果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試合結果の集計業務の時間は平均して3分の1に短縮した。</li> <li>・大会翌日の朝刊まで出来なかった試合結果告知が、Webページから試合後30～40分後には可能になった。</li> <li>・連日深夜に及んでいた新聞社発行の号外の作成・確認作業が、試合終了後4時間程度にまで短縮された。</li> <li>・8月は172万PV 9.6万人がアクセス。また、男子チームの参加数が2年連続で定員枠(256)に達した。</li> </ul>	
定性的導入効果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の締め切りの厳守や例外処置の廃止など、従来の大会運営上の課題が克服された。</li> <li>・郵便での参加申込や選手エントリーのやりとりがなくなり、事務局スタッフの業務効率が格段に改善された。</li> <li>・参加チームの指導者間の交流促進をはじめ、様々なコミュニティの形成に意識が向かってきた。</li> </ul>	
導入に当たって克服した課題(苦労をした点・工夫)	
<p>新聞報道にも提供するため、データ処理は迅速性のみならず、正確性、信頼性の確保が厳格に要求された。リーグ・トーナメント戦の混在、全チームの順位決定等運営ルールのアルゴリズム化は困難な課題であった。</p>	
現状の課題、今後の展開など	
<p>システム開発者が、同大会が終了する度に、その年の結果を固定し、次の年のメンテナンスを行わなければならない。ターム(1年)ごとのシステムのメンテナンス等を事務局が簡単に行えるようにする。</p>	
過去の表彰歴および表彰に関する報道等	
<p>情報処理学会情報教育シンポジウム2006においてデモンストレーション賞を受賞</p>	
本件の問合せ先	牧野弘宜 054-273-4914 (株式会社TOKAI内)

# 全国少年少女草サッカー大会運営支援システム

(NPO法人ふじのくに情報ネットワーク機構)



- 書類申込手書き**
- 参加申込案内通知
  - 参加申込受付
  - 参加チーム決定
  - 選手エントリー受付
  - 宿泊受付
  - バス等交通手段の受付
  - 弁当の受付
  - チーム宿泊先の決定
  - 弁当サンプル公表
  - 試合組み合わせ、会場の決定

試合会場の報告者

試合結果の集計

記録本部  
端末に手入力

新聞で試合結果の公表(翌日)

運営関係者への資料提供

大会期間前

導入後

インターネット・携帯Webを利用した情報システム

導入後

大会期間中

申込者



- 申込者情報
- チーム情報
- 選手情報 など



事務局  
申請内容チェック

データの格納



データの出力

参加チーム一覧ページ

データダウンロード

記録用紙の作成

- 大会基本情報
- 試合組み合わせ
- 宿泊先情報 など

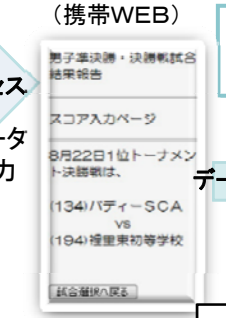


試合会場の報告者  
21会場37グラウンド

アクセス

データ入力

試合結果報告ページ(携帯WEB)



- チーム得点
- 得点者
- 警告 など



記録本部  
入力内容チェック

データの格納



データの出力

試合速報

チームの戦績ページ

運営関係者への資料作成

リーグ戦表・トーナメント戦表作成



- 保護者(全国)
- 参加者(会場)
- 運営関係者(会場)

アクセス

アクセス



40分後掲載